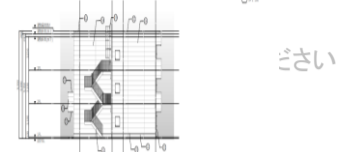


# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇様賃貸施設新築工事(仮称)あすな	階数	地上3F
建設地	埼玉県行田市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2023年2月6日
敷地面積	2,403 m <sup>2</sup>	作成者	加納 宗
建築面積	724 m <sup>2</sup>	確認日	2023年2月6日
延床面積	2,097 m <sup>2</sup>	確認者	加納 宗



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.1</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 88% ③上記+②以外の 88% ④上記+ 88%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q1 室内環境: 3.1 Q2 サービス性能: 3.0 Q3 室外環境(敷地内): 2.8 LR1 エネルギー: 3.2 LR2 資源・マテリアル: 3.0 LR3 敷地外環境: 3.1</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.8</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 3.1</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.0</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>外皮性能を高める設計とし、エネルギーの効率的な利用を図り、かつ各居室とも十分な広さを有しており、利用者の空間的・心理的なストレスを軽減している。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>屋光を適度に制御可能な設計としている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>各居室とも14㎡以上の広さがあり、利用者が過ごしやすい環境となっている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>0</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>建物外皮の熱負荷抑制について、BPI=0.70と、建物の熱損失性能の向上に努めた計画としている。 建物全体にLED照明を使用している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水型便器を使用し、水資源の保護に努めている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>個室数60に対し、33台分の駐車場を確保しつつ、搬入車や作業車等が停車できる十分なスペースがある。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**〇様賃貸施設新築工事(仮称)あすなろ行田**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄				全体	
			評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>				<b>0.40</b>		<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00
1.1 室内騒音レベル			<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40
1.2 遮音			<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20
1.3 吸音			<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20
<b>2 温熱環境</b>			<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00
2.1 室温制御			<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57
2 外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御			<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30
<b>3 光・視環境</b>			<b>3.0</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00
3.1 昼光利用			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30
1 昼光率			3.0	0.60	3.0	0.60
2 方位別開口			-	-	3.0	-
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策			<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30
1 昼光制御	カーテンと庇による昼光制御(居室)		3.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00
3.3 照度			<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15
3.4 照明制御			<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.5</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00
4.1 発生源対策			<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63
1 化学汚染物質	告示対象外およびF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用		4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.3</b>	0.38
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室面積の1/15以上		3.0	-	4.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理			<b>3.0</b>	0.20	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-
2 喫煙の制御			3.0	1.00	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00
1.1 機能性・使いやすさ			<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60
1 広さ・収納性	全個室において10㎡以上の広さを確保		3.0	-	5.0	1.00
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	3.0	-
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40
1 広さ感・景観			3.0	-	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-
3 内装計画			3.0	1.00	3.0	0.50
1.3 維持管理			<b>3.0</b>	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.1</b>	0.30	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振			<b>3.0</b>	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			<b>3.4</b>	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種以上にB種を使用かつE種不使用		5.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性			<b>3.0</b>	0.20	-	-
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-
3 電気設備			3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.3</b>	0.30	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.1</b>
3.1 空間のゆとり			<b>1.8</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.70	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの効率化		[BEI][BEI <sub>m</sub> ]= -	<b>2.7</b>	0.50	-	-	<b>2.7</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 水資源保護			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率88%	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車・作業・出入り車両について十分なスペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート






■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	〇様賃貸施設新築工事(仮称)あてBEE	1.1	BEEランク	★★★
------	---------------------	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア				
3.4	+	2.6	=	6.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がらんぼう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
<配慮した内容を記述> BPI=0.70達成により、CO2排出率を抑えている。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			

: 入力欄